

令和6年度 2月の補導活動

佐久市少年センター

1	街頭補導実施回数	17回
2	延べ従事補導委員数	72人
3	相談件数	0件
4	補導した少年数	0人
5	声かけ人数	265人



2月の活動日誌から

2月3日（月）

8班（N・H） 記

巡回経路 大型ゲームセンター → 鼻顔公園 → 東児童館 → 大型スーパー
→ 平根児童館

活動の様子

今にも雪が落ちてきそうな肌寒い曇り空の下、今日は街頭に子どもはいないだろうと思いつつ補導活動に出発しました。大型ゲームセンターは、相変わらず成人が多く、いつもは見かける親子連れは見当たりませんでした。大型スーパーのフードコートのをのぞくと、児童・生徒はおらず、年配者が2人、お話をされていました。今回訪れた児童館は、両館とも賑やかな声が響いていました。一つの館では、一輪車を器用に乗りこなす児童に感心しました。また、仲良く積み木遊びをする児童に声をかけると、はにかみながら明るくあいさつしてくれました。他の館では、元気にドッジボールをしていました。また、漢字練習をしていた2年生の女子児童は、「家に帰ってやるより、ここでやって帰った方がいい」と、はきはき答えてくれました。両館とも、30人ほどの利用があり、1、2年生に比べると、高学年の利用者は少ないとのことでした。

2月4日（火）

11班（K・I） 記

巡回経路 生涯学習センター → 大型ディスカウントストア → 大型スーパー

活動の様子

生涯学習センター1階のつどいの広場では、楽しそうにトランプをする中学3年生のグループと一生懸命に勉強をする1年生のグループがいました。2階の学習室では、大学受験生10数人が真剣に勉強していました。大学卒業後は地元に戻ってきてほしいと期待します。大型ディスカウントストアを訪問しました。たくさんの商品が並べられ、『迷路』のような状況です。火災や地震等が発生したら・・・と思うととても心配です。大型スーパー2階のフードコートでは、2人の中学生が勉強していました。また、その近くで中学生の男女が寄り添う姿に、異性の距離感を考えさせられました。

2月5日（水）

14班（S・T） 記

巡回経路 中込駅 → 学習塾 → 中込会館 → サングリモ図書館 → 城山公園
→ 原公園 → 生涯学習センター → 橋場公園 → 水上公園

活動の様子

今冬、『最強・最長級』の寒気が居座る中、真冬日を思わせるような寒い一日であった。「このように寒い日には、外で遊んでいる子どもはいないだろう」と話しながら巡回を開始したが、城山公園・原公園では、子どもたちが元気よく遊んでいた。原公園で遊んでいる小学3年生に声かけをすると元気な声が返ってきた。生涯学習センターでは、数十人の小、中、高校生が勉強したり、遊んだりしていた。受験シーズンであり、2階の学習室でも多くの高校生が勉強していた。ここは、本当に環境がよく、子どもたちに人気があるようで、席に座れず外で待っている子どももいた。（スペース的には、もう少し椅子やテーブルを増やせるのではないかと思った）このような施設は、本当に大切だと感じた。

2月6日（木）

15班（T・R） 記

巡回経路 中込駅 → 成知公園 → さくまんが舎 → 砂田公園
→ 市民交流ひろば → 大型スーパー → 近津南公園
→ 佐久平浅間児童館 → ねむのき公園



活動の様子

外気温2度、風が肌をさすごとく冷たい時間帯、浅間地区方面の補導をさせてもらった。多くの公園に子どもの姿はなかったが、ねむのき公園に6年生の児童2名が遊びにきていた。寒い中なので風邪などひかないように早めの帰宅を促した。暖かな大型スーパー内ゲームコーナーには、親子連れや男女の若者たちがゲームなどをしていた。係員に聞くと、単独で来ている小、中学生には規定の時刻には帰宅するよう声かけをしているとのことだった。「さくまんが舎」を初めて訪問した。入館無料で土日になると小、中学生も来館するという。様々な受け皿の中で子どもたちの健全な成長を望みたい。

2月7日（金） 啓発活動（大型スーパー出入口周辺）

3班（O・T） 記

概要

今年は、暖冬と言われてきましたが、当日に限って冷たい風が吹き荒れる中、大型スーパーの出入口で「信州あいさつ運動」の啓発活動として、ポケットティッシュを配りました。寒さのせい、人もまばらでしたが、積極的な声かけで多くの皆さんにポケットティッシュを受け取っていただき、すべて配ることができました。（ご一緒してくださった皆様、その後、お風邪を召されませんでしたでしょうか）その後、大型スーパー内のゲームコーナーを巡回しました。卒業シーズンに近いこともあり、プリントシール機では、おしゃれをした女子高校生が多くいました。お友達との思い出を大切に、次の一歩へ羽ばたいてほしいとほほえましく感じました。

2月10日（月）

12班 専門補導委員 記

巡回経路 生涯学習センター → 東田公園 → 原公園 → 城山公園
→ ビデオレンタル店 → 泉団地内公園

活動の様子

最強ともいわれる寒波の襲来に、街頭に出るにはいささか決意が必要である。それでも今日は、日差しに暖かさを感じる。生涯学習センターの駐輪場には30台以上の自転車が駐輪されており、大勢の来館が予想できた。つどいの広場に

は、小、中、高校生に少数の大人を含め、30 人以上の利用があった。当日は、一部小学校は計画休業、中学校は公立高等学校の前期選抜とのことであった。また、受験を控えた高校生は、物音も立てず、学習室で真剣に学習していた。東田公園、原公園は閑散としていた。城山公園に足を伸ばし、キャッチボールをする2名の6年生、縄跳びをする5年生の女子児童と笑顔で会話することができた。ビデオレンタル店の来客はまばらであった。店員さんの話では、午前中には多くの小学生が来店し、特にトレーディングカードが人気であるという。また、一人で来店した中学生が、高価な中古スマートフォンを購入したケースがあったと伺ったが、店の形態が大きく変わってきていると感じた。泉団地内公園では、小学生8人が「だるまさんが転んだ」をして、元気に遊んでいた。声かけをためらわせるほど真剣で楽しそうな姿をしばらく見守った。

2月12日（水）

18班（M・Y） 記

巡回経路 浅科支所 → 大型スーパー → 市民交流ひろば → 近津南公園
→ 佐久平浅間児童館 → ねむのき公園 → 浅科支所

活動の様子

厳しい寒さも和らぎ、最高気温も 10℃となった。現地に向かう途中、横断歩道手前で停止すると、横断歩道を渡り終えた浅科中学校の生徒が深々と頭を下げて感謝の気持ちを表してくれた。この姿を見て、これからも子どもたちの安全を守らなければという気持ちが一層強くなった。大型スーパーの2階にあるフードコートには高校1年生の女子4名が勉強していた。ゲームコーナーでは、家族連れで遊ぶ姿が見られた。ねむのき公園では、女子中学生3名が楽しそうに話していた。演劇部の仲間とのことだった。

2月13日（木）

19班（H・T） 記

巡回経路 望月図書館 → 望月宿公園 → 佐久良公園
→ 並木団地公園 → 小平グランド → 望月児童館

活動の様子

望月図書館で利用受付をしていた中学生に声をかけると受験勉強のための利用とのことでした。他にも5～6人の中学生が静かに学習していました。続いて各公園を巡回しましたが、寒い日であったためか子どもたちの姿はありませんでした。佐久良公園にいた方に何うと「バイクに乗った子どもたちが集まることある」とのことでした。そのような場合は、時季や時間を合わせて巡回することも必要かもしれないと思いました。望月児童館では、50人ほどの子どもが思い思いに過ごしていました。話しかけると、とても楽しそうに答えてくれ、こちらの気持ちも明るくなりました。



（写真は、望月児童館職員手作りの『梅とウグイス』の折り紙）

2月14日（金）

5・6班（T・R） 記

巡回経路 大型スーパー → やまぼうし公園 → ねむのき公園 → 近津南公園
→ 市民交流ひろば → 砂田公園 → 大型スーパー

活動の様子

風のない日向は、ほっとする暖かさ。補導巡回の足も前に進みます。浅間地

区には大小さまざまな公園・広場があり、今日はいくつかを巡りました。市民交流ひろばでは、移住されてきたという親子連れに行き会いました。移住先として人気1、2位に名前を連ねる佐久市。実際に移住されてきた方々とお会いするのは初めてで、今更ながら佐久市の魅力を伺い、一市民として嬉しく思いました。砂田公園内の築山で、高校生数名がお弁当を広げて談笑していました。皆、しっかりあいさつしてくれました。本人たちのものか、高級仕様(?)の自転車には補導委員一同、目を見はりました。いつもは賑やかなのに今日は誰もいない公園もあり、こういう日もあるのかと思いつつ、巡回を終えました

2月17日(月)

7班(I・H) 記

巡回経路 浅間会館 → 岩村田小学校 → 中央図書館 → 鼻顔公園
→ 大型スーパー → 東会館 → 旧志賀小学校

活動の様子

冬型の気圧配置に戻り、吹く風も冷たい。下校時刻で、岩村田小学校を出てきた児童は、襟巻や手袋で体を寒さから守りながら帰宅を急いでいた。校門を出て、児童館に向かう生徒は、歩行の安全を確保するために、グリーンベルトのある歩道を通らず、あえて南側の通路を左側通行していた。中央図書館は休館日で、駒場公園、鼻顔公園、大型スーパーのフードコートでも児童・生徒を見かけなかった。東会館には、学習室兼小会議室が用意されている。明るく清潔感のある学習室を、多くの子どもたちが有効に活用してほしいと感じた。以前、旧志賀小学校のグラウンドを訪れたおり、野球をする子どもたちを見かけたが、この日は寒さが厳しいこともあり、寒風に木々が揺れるばかりであった。

2月18日(火)

9班(U・Y) 記

巡回経路 生涯学習センター → 取出町諏訪神社 → 東田公園
→ 高柳公園 → 中嶋公園 → 城山公園 → 跡部神社 → 原公園

活動の様子

2月の寒い中での街頭補導となったため、屋外で過ごす子どもの姿は少なかった。高柳公園で出会った小学生が公園で宿題をされていて、立派だなと思った。生涯学習センターでは、『つどいの広場』『学習室』ともほぼ満席で児童・生徒が勉強をしており感心した。

2月19日(水)

1班(K・M) 記

巡回経路 大型スーパー → 若宮公園 → 岩村田児童館
→ 枇杷坂公園 → 大型スーパー

活動の様子

本日は、水曜日で小1～6年まで一斉下校でした。若宮公園では、数人の小学生が仲よく遊んでいました。岩村田児童館では、本日は少数ということでしたが、普段は100人ほどの子どもたちで賑わっています。外で遊ぶ子、屋内で遊ぶ子と歓声が沸き上がっていました。道中の公園でも寒い日でしたが、遊んでいる数人の姿が見えました。大型スーパーのフードコートでは、高校生が必死に勉強していました。数名に声かけしたところ、「今日、明日とテスト」ということでした。ゲームコーナーでは、親子連れが目立ちました。卒業や入学シーズンですが、無事に過ごしてほしいです。



2月20日（木）

16班 専門補導委員 記

巡回経路 あいとぴあ → 臼田駅 → 下越公園 → 稲荷山公園
→ 臼田小学校通学路 → 切原児童館 → 下の宮公園

活動の様子

日差しのない寒い一日で、街頭の人影もまばらである。臼田駅から下越公園に足を伸ばすが、子どもの姿はなかった。稲荷山公園でも数名の大人が散歩をしていたが、子どもたちの歓声はない。臼田小学校付近にさしかかると、ちょうど下校の時刻で、多くの児童が帰路についていた。臼田インター付近の道路は道幅が広く、歩道も設置されている。この辺りを通行する車はスピードを出しがちで、交通事故も懸念されるが、子どもたちは、信号に従って安全に下校していた。切原児童館には、1、3年生の児童8名が来館していた。宿題の書き取りをしたり、トレーシングペーパーを使って絵本のイラストを写したりと、どの子も穏やかな表情で過ごしていた。下の宮公園では、さすがにこの寒さの中で、いつものように野球をする子は確認できなかった。近くを通りかかった2人の小学生は、側溝の氷に乗って、氷の厚さを調べていた。声かけをして、特に危険性のないことを確かめたが、小学生の子らにとって、登下校時の友とのふれあいや、何気ない自然とのかかわりは、彼らの知性を大きく発達させるに違いないと改めて感じた。

2月21日（金）

13班（I・K） 記

巡回経路 横町公園 → 平賀新町公園 → アベニュー団地内公園（3か所）
→ 旧平賀保育園跡地 → 佐久城山小学校 → 中込中学校 → 佐太夫町公園

活動の様子

天気も良く、15時30分になっても、まだ、明るい中での巡回でした。アベニュー団地内の3公園には誰もいませんでした。佐久城山児童館では、120名ほどの児童がいました。外で大勢の女子が楽しそうに縄跳びをしていました。学校でもやっているようです。児童館の裏に新たに庭ができ、その庭で数人の男子が元気いっぱいサッカーをやっていました。“子どもは風の子”です。中込中学校のテニスコートでは、寒い中、10数名が元気よくテニスをやっていました

2月25日（火）

2班（U・R） 記

巡回経路 大型ゲームセンター → 浅間会館 → 学童保育 → 学習施設

活動の様子

寒波が過ぎ去った後のとても穏やかで温かい日でした。大型ゲームセンターでは、高校生が「テスト期間中の息抜き」と称して遊んでいました。浅間会館の『図書室兼学習室』では、大人1人と高校生1人が学習していました。閉館となる年末年始以外は無料で利用できるようですが、近隣の住民への周知が必要と感じました。その後、学童保育と学習施設を見学し、各家庭のニーズに合わせて様々な形態が必要になっていると実感しました。

2月26日（水）

4班（T・A） 記

巡回経路 大型スーパー → 市民交流ひろば → 近津南公園
→ ねむのき公園 → 枇杷坂公園

活動の様子

大型スーパーのフードコートでは、定期テストに向けて学習する高校生が見受けられました。一方で、ゲームコーナーの高校生に声をかけると、テストが終わったとのことでした。昨日まで、日本の広い地域が寒波に覆われて大変寒かったですが、今日は、気温が上がって、各所の公園では小学生がボール遊びをしていました。専門補導委員さんは、子どもたちに話しかけるのが上手です。話している内容を聞くと、以前に会った時の話もしていることが分かりました。このつながりが街頭補導活動ではとても大切であると思います。私は、月に1回の補導活動であり、同じ場所を巡回するとは限りません。そのような点で、専門補導委員さんのように話しかけることができませんでした。しかし、自分の住んでいる地域の子どもたちの登下校中や休日に巡回して、できるだけ声かけをしたいと思いました。今日は、話しかけたり、話を聞いたりすることが街頭補導活動では大切なことであることを学びました。

2月27日（木）

17班（I・K） 記

巡回経路 下の宮公園 → 五稜郭公園 → 田口児童館 → 蕃松院 → 御幸神社
活動の様子

連日厳しい寒さが続く中、本日に限っては非常に穏やかな一日でした。下の宮公園では、小、中学生の姿はなく、大人の男性1人がサッカーをしていました。五稜郭公園では、大人5、6人と子ども6、7人が元気に遊んでいました。ここの駐車場は、スクールバスが止まるので、とても賑やかな時間帯もあるとのことでした。ここは、非常に手入れが行き届いており、素晴らしい環境なので、さらに多くの方に利用していただきたいと思います。田口児童館では、外で男子4人が、室内で男子1人と女子6人が明るく元気に遊んでいました。その中で、誰かが「〇〇をやろう！」と声をかけると、全員が協力して楽しむという雰囲気があり、好感が持てました。蕃松院に人の姿はありませんでしたが、境内はとてもきれいでした。御幸神社では5年生の男子2人が遊んでおり、気をつけて帰宅するよう伝えました。

2月28日（金）

10班（S・T） 記

巡回経路 生涯学習センター → 東田公園 → 鍛冶屋公園 → 高柳公園
→ 中嶋公園 → 原公園 → 城山公園

活動の様子

季節外れの暖かさの中での巡回でした。そのせいか、公園で遊んでいる人はこの季節にしては多かったと思います。公園では、サッカーや鬼ごっこをしている小学生、幼児を連れた親御さんなどがいました。声をかけると、ていねいに答えてくれました。城山公園に来ていた女兒4人は、レジャーシートを持っており「ピクニックに来た」と楽しそうに答えてくれました。みんな仲良く遊んでいる姿が印象的でした。公園は、ゴミが散らかっている様子はなく、マナーが守られていると思いました。



◀ 2月の活動を終わって。 専門補導委員 Y・K ▶

佐久にゆかりがあり、全国や世界を舞台に活躍した先人を紹介した冊子「佐久の先人」に野沢出身の小池勇助軍医が紹介されています。

小池は、満州や沖縄に出征。沖縄で隊長を務めていた第二野戦病院に積徳高等女学校の生徒 25 名からなる「ふじ学徒隊」が配属された。学徒隊は、不眠不休で傷病兵の食事の世話、排せつ物の処理、包帯の交換などの看護や手術の手伝いに従事していた。そして、戦況が悪化し砲撃を受ける中を移動し、現在の糸満市「糸洲の壕」と呼ばれる自然洞窟にたどり着いた。日本軍がほぼ壊滅、戦闘が沈静化するのを待ち、小池はふじ学徒隊の解散命令を下した。小池は、ふじ学徒隊を解散する際「必ず生き残って家族のもとに帰りなさい。絶対に死んではならない」と諭し、そして「悲惨な戦争の最期を銃後の国民に語り伝えてくれ」と呼びかけ、学徒隊を壕から脱出させた後、軍医は自決。54 歳だった。（参考文献 佐久の先人）

＊ 佐久市では「戦争の悲惨さ、命の大切さ」をより深く学ぶ平和学習の場とするため、糸洲の壕の学習環境整備事業を行いました。

私ごとですが、もう半世紀以上も前の 18 歳の時に知り合った沖縄県出身の友がいます。戦後、沖縄は米国の支配下となり、1972 年（昭和 47 年）施政権が日本に返還されました。それまでは、車は右側通行、本土往来には、パスポートが必要でした。返還翌年の春、アルバイト学生の私は、パスポートなしで本土に来て都内の菓子店に就職した彼と出会いました。同い年の私たちは、意気投合し親しくなりました。ところが、出会いから約半年後、彼は「もう一度、自分が進むべき道を見つけない」と原点回帰することとし、晴海ふ頭から船に乗って沖縄へ帰郷しました。

彼は、高校時代、陸上の選手でしたが、虫垂炎の手術をし、県大会直前は病院のベッドの上だったようです。しかし、医師の指示を拒んで退院、大会に出場したようです。（結果は皆さんの想像のとおり）そんな彼が尊敬していた人物は、東京・メキシコ・ミュンヘンの五輪に 3 回連続出場した『君原健二選手』です。彼は、君原選手の

“私は苦しくなると休みたくなるんです。しかし、そんな時、「あの街角まで」「あの電柱まで」「あと 10m だけ走ろう」と言い聞かせて走ります”

という言葉が好きだったことを今でも覚えています。君原選手は、第一線から退いた後も市民ランナーとして走り、これまでの 74 回のフルマラソンで 1 回も棄権することなくすべて完走しているようです。君原選手の名言の中の 1 つを紹介します。

“人生はよくマラソンに例えられますが、私は、むしろ人生は駅伝であると思います。前を走っていた者からタスキを受け継ぎ、後ろに走る者にタスキをつなぐ。途中で走ることをやめるわけにはいかないのが人生。”

社会・地域の宝であり将来の日本を背負う青少年がたくましく成長することは、私たちの願いであり、責任でもあります。先人・先輩から受け継いだ青少年健全育成活動というタスキを次代にしっかりとつなげることは、私たちの責務ではないでしょうか。

＊ 追記 彼は、その後、調理師になり、沖縄のホテル総料理長、琉球料理传承人、県調理師会の要職につきました。今月下旬、彼は家族と我が家に泊りがけで来ます。彼と昔話をしながら一献傾けるのを楽しみにしている昨今です。